

ドイツ遠征を振り返って

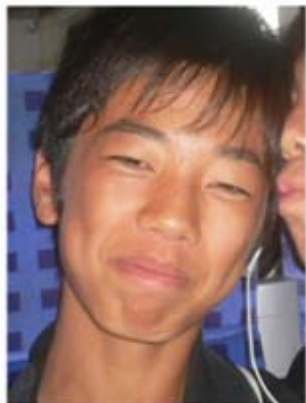
【上田 圭介】 Ueda Keisuke

ドイツ遠征では、時差がある中で、一度も遅刻することなく起床することができた。でも何度が同じ部屋の人に起こしてもらったことがあった。その時は、本当に助けられたと思った。

観光では、電車で移動しました。観光地で一番印象的なのは、ケルン大聖堂です。そこは、とても大きくて中に入ってみて、まず周りのステンドグラス目に飛び込んできた。僕はすごく感動しました。またケルン大聖堂は上まで登ることができ、そこから見たドイツの街はまさに絶景だった。観光地での買い物は、最初に早く買いすぎてお金がなくなり残りの時間で良かったものがあったけど、買うことができなくて失敗したなあと思った。

ドイツ人とのコミュニケーションが取れたのは、合宿の時からでした。合宿前は、ヒルデンの選手とは1度も話せなかったけど、合宿では自分から積極的に声をかけ、一緒に写真を撮ったり、卓球をしたりできて、とても楽しく良い経験になった。ストリートサッカーは、キーパーを含めて5人しかいなかったの、とにかくパスを出したら、次にボールを受けられるように動き出すことにチャレンジした。その結果ゴールにもつながったし、決勝戦まで勝ち続けることができたのだらうと思った。

ドイツのチームは体も大きいし、足も速い。僕がそこから学んだことは、裏も対応できてインターセプト、または相手を自由にやらせないポジショニング、そしてボールをとりに行くタイミング、サイドフォワードのサポートをしながらカウンターへの対応ができるポジショニング、パスを出した後の動きだし、これらのことをしっかり日本で生かしていきたいと思います。



【仙洞田 陽】 Sendoda Yo

出発する前は、すごくドキドキしていて、不安がありました。準備ではドイツ語の本を買ったり、スーツケースを何度も見直したり、念入りにやりました。行く前は、ドイツ人とのコミュニケーションの取り方でジェスチャーしたり、知っている単語を並べようと思っていました。けど、ホームステイがなくなり、ドイツ人とのコミュニケーションをとる機会が減りました。それでも合同合宿のときは、積極的にコミュニケーションをとっていいと思っていました。けど、実際行ってみると、ドイツ人が何を言っているのかが分からず、受け答えに困りました。でも日が経つにつれ、なんとなく言っていることが分かってきて、知っている単語やジェスチャーで答えたり、質問することができるようになりました。だんだん会話が進むと、名前を聞いたり、ポジションを聞いたりすることができるようになりました。言葉のことで困ったけど、ドイツへ行って、びっくりしたことはたくさんありました。水道水が飲めないこと、トイレが有料なこと、あとは環境の違いです。ドイツではご飯の時も、水が高いのか炭酸水が出てきます。水道水が飲めないのは、すごく不便でした。トイレではお金をとられるから、出かけた時も本当に行きたいと思うまでなるべく行きませんでした。

環境の違いには、すごくびっくりしました。夜は9時過ぎても明るく、ドイツへ来て暗さを体験しなかったです。

あとはすごく涼しいです。朝と夜は長袖を着ていないと寒かったです。

サッカーの環境も良かったです。日本との違いは、人工芝が短くて、足が滑り、ボールもすごくスリッピーになりました。パスが少しずれると、パスミスになるので、まずはグラウンドに慣れることから始めました。ドイツに来て初試合は、相手の体の強さとスピードに戸惑いました。でも徐々に相手の間合いとかがわかってきて対応することができました。ゴール前での攻防が課題として残りました。ゴール前で体を張って守れない……1対1でシュートを決められない……などが課題です。ドイツではゲームの時、副審がいなくて、きわどいところなど、オフサイドをなかなか取ってもらえなかったの、笛が鳴るまで最後までプレーしました。

自分の課題として残ったのは、ラスト数分のところの集中力、強い相手に対しての球際の強さです。高円宮杯へ向けての課題を克服して伸ばしていきたいです。

全体を通して、すごく勉強になりました。このドイツ遠征では、自分なりにテンションを高く持って、みんな楽しくできたと思います。ドイツにずっといたいと思っていいけど、2日目からはすごく楽しくて10日間があつという間でした。このドイツ遠征で学んだことは、これからの生活で生かしていきたいです。

ドイツ遠征を振り返って

【今村 天】 Imamura Sora

このドイツ遠征は、僕にとって、不安や期待がいっぱいのものでした。まず、ホームステイがなくなったとわかった時は安心したけれど、少し残念な気持ちにもなりました。

ドイツに着いて最初に思ったことは、涼しい・・・ということでした。空港からホテルに行くときに乗った車では、160km/hぐらいのスピードが出ていてびっくりしました。ドイツの街並みは日本と違って、いろいろ良いところがありました。

初日はドイツ人の人たちにも、あまりあいさつができなかったけれど、日に日にできるようになって良かったです。

ドイツ人とのコミュニケーションは、合同合宿の食事の時に初めてできました。最初は気まずくて話にくかったけど、だんだん話が盛り上がってくると、いろいろな会話ができて、とても楽しかったです。自分が勉強してきた英語をちゃんとした会話で使えてとてもうれしかったです。

サッカーについては、最初に試合をして思ったことは、やっぱり“デカイ”ということです。本当に身長が大きくて、体が強くて、速くて、最初は、みんなミスが目立っていたけれど、試合を重ねるごとに、自分たちのサッカーができるようになりました。

長いと思っていた10日間も本当にあっという間でした。思い残すことはあるけれど、とても良い経験になったし、楽しかったからよかったです。

このドイツ遠征で得たものを、今後の生活に生かしていきます。



【寄特 直人】 Kitoku Naoto

このドイツ遠征、みんな楽しめることができた。最初は不安な気持ちがあったと思うけど、ドイツに着いてからは、すぐに楽しいという気持ちをもてました。ドイツに着いて驚いたことは、夜の9時になっても明るいことです。だから19:00のゲームもとても明るく日差しがとてもまぶしかった。ドイツの料理にはとても驚いた。肉の量が多かったが、時間をかけて食べることができたり、みんなと楽しみながら食べられた。ショッピングでは日本と変わらずにスムーズにできた。だが、買い物中のトイレには困った。龍之介たちがトイレに行ったら、“金を出せ”と言われたらしく、最初は驚いたが、日が経つとお金を出すのは常識だと気づいた。

ドイツ人とのコミュニケーションは良く取れた。特に日本の漫画キャラクターでコミュニケーションが取れた。ドイツ人も良く日本のことを知っていて、NARUTOやドラゴンボールで盛り上がった。向こうは年上だったけど、やさしく接してくれたのでよかった。

チャレンジしたことは、場の雰囲気をもたげようとしたが、なかなかできなかったのが残念だった。

サッカーに関しては、向こうの人は、とても体格がガッシリしていたので、最初の試合はとても驚いたが、重ねるうちに慣れた。ドイツ人は勢いやスピードが違ったが、やりがいがあったとても良い経験となった。

ドイツ人と日本人の違いは、何事に対しても本気で、とても熱い気持ちが伝わってきた。自分もドイツ人から学んだことは多々あると思う。それをみんなで高円宮杯で発揮していきたいと思った。

最後にドイツ遠征では、日本では手に入らないものも、手に入れることができたし、ドイツと日本の違いを知ることができた。あっという間の10日間で、また行きたいけど、とても良い経験になったのでいい宝物になった。また、この遠征にかかわってくれた人や親に感謝したいです。ありがとうございました。

ドイツ遠征を振り返って(まとめ)

【早坂 龍之介(チームキャプテン)】 Hayasaka Ryunosuke

遠征では毎日が早起きで少しつらかった。自分で起きられなかったからアラームに頼っていたけど、携帯電話の時計をなおしていなくて、日本時間のままだったから、アラームが鳴らなくて寝坊してしまった。そして昼は時間が結構相手から夜に試合という日もあって、日本ではあまりないことを経験できた。4日間のホームステイがなくなって1日目から4日目ホテルになって、5日目～7日目がヒルデンのチームとの合同合宿をして、8日目、9日目はケルンとデュッセルドルフの街を観光して、最終日に飛行機で帰るというちょっと変わったスケジュールだったけど、すごく楽しく、自分のためになったと思う。買い物では、自分から積極的に「これいくら？」など聴くことができた。

ドイツ人とのコミュニケーションは、最初は自分からあまり話しかけることができなかったけど、日数が経っていくうちにちょっとしたことやジェスチャーだけだけど、コミュニケーションがとれた。そして最終的には自分からドイツ人に話しかけて、一緒に遊ぶことができた。

何をするにも最初はドイツ語の本が手放せなかったけど、途中からは自分の力でやってみようと思って買い物に行くときは、ドイツ語の本を持っていかないで行った。そして買い物もしっかりできた。

サッカーの面ではドイツ人のフィジカル、スピードに圧倒されていたけど、しっかり自分の力を出せば、十分通用した。だけど、プレッシャーが激しく少しでも迷えば、ボールを奪われてしまった。

チームとしてもこのドイツ遠征で大きく成長したと思う。このドイツ遠征で身につけたものを日本に持ち帰り、そして高円宮杯で、その力を出し、優勝したいと思います。



『珍道中ドイツ遠征』の編集を終えて

【代表 皆川 新一】 Minagawa Shinichi

やっと完成を迎えることができました。毎年のことながら、年が変わらないと追いつめられないこの性格は何とかならないものかと毎年思っていながらも……今回も結局、修了式間近という結果になってしまいました。

今こうやって選手たちの日記を読んだり、写真の数々を見直したりしていると、8月の遠征が昨日のことのようによみがえってきます。今回の遠征は、数えて9回目になります。遠征先は毎年同じところではありますが、毎回毎回、その年ごとに新しい発見や、新しい人たちとの出会いがあり、本当にわくわくする期間を過ごせます。今年の遠征は、4月から猛威をふるった新型インフルエンザの影響で、ホームステイの受け入れが不可能となり、ホテルでの滞在ということとなりました。この遠征の目的は、第1回目の時から“ドイツ文化の中に入っていく” そのための手段としてホームステイ……というのが欠かせない中味の一つではあった。今回、そのホームステイができないということでその目的が達成できるか……どうかが懸念されましたが、ユアー氏の提案で合同合宿をすることができました。その中で選手たちは同年代の選手たちと宿泊所内そしてフットサル大会で思いっきり交流することができました。

今年のチームは力があるのだが、なかなか結果として表れず、苦しい時期が続きました。ポジションも固定できず、高円宮杯に向けてどう戦っていこうかと私自信も試行錯誤していたことを覚えています。そんな状況での西日本遠征とドイツ遠征でした。選手たちが何かを得てくれれば、何を感じて、自分が何をすべきかをつかんでくれれば……と選手達にすがる思いで、広島までバスを運転し、そしてドイツへと飛んで行きました。ドイツでは、ホテル滞りということもあり、なかなか自分からチャレンジという場面がなく、選手たちも内にこもり気味だったのですが、買い物や、サッカーの試合を重ねるにつれ、選手たち自ら積極的に1歩を前に進んでいく姿が見られるようになりました。片言のドイツ語、英語でドイツ人に話しかけたり、買い物でも欲しいものを手にするために積極的に店員さんに問いかけたり……とどんどんドイツを楽しむようになってきました。

サッカーの試合においても、最初はドイツ人の体の大きさ、玉際の強さに圧倒され、戦いにならなかったのが正直なところです。しかし時間が経つにつれ選手たち自身で相手に負けない気持ちを持って戦って行くようになっていきました。ユアー氏のチーム、Vfb03HildenB1との2試合目の試合で、勝利したゲームはその証だと思います。ただ、守備においてのクロスボールへの対応は、最後まで課題として残り、来る高円宮杯までに必ず修正しなければならぬ状況であった。

ご存知の通り、すでに高円宮杯も終わり、県大会4連覇を成し遂げました。決勝戦では苦しい戦いではありましたが、選手たちのハードワークと、クリエイティブさで相手を上回りました。西日本遠征、ドイツ遠征での貴重な体験が、選手たちを心身共に成長させていったんだろうと思っています。

最後に今回の遠征にご尽力いただいたムラキエージェンシーの熊谷氏、ドイツとのコンタクトを取っていただいた下田さん、ドイツでのすべてのコーディネートにご協力いただいたMr.Hemut、遠征中ドイツでの活動に同行し力添えをいただいたTobias、本当にありがとうございました。Vieren Dank fuer Alles! そしてなにより、快く送り出してくれたご家族の皆様、本当にありがとうございました。また今回初めて私の息子“光”も同行させていただきましたが、選手たちの温かいまなざしで彼も楽しい期間を過ごすことができました。U-15の選手たちの思いやりには本当に感謝いたします。ありがとう。

相変わらず進歩のない支離滅裂な珍道中ではありますが、少しでも現地の様子が伝われば幸いです。それでは、この辺で。

フォルトウナサッカークラブ

代表 皆川 新一

